

CHAPTER

4

述語の豊かさにふれよう

第2章と第3章で扱った内容は、大づかみに言えば「動詞を含み、ひとまとまりで、SやCやOや修飾語としてはたらくものについて学ぶ」というものです。この内容は、少し見方を変えれば「英語を構成する要素であるS、V [be Ved]、C、O、修飾語のうち、V [be Ved] (つまり述語) 以外のものについて、いろいろな姿を知る」とも表現できます。

この第4章では、第2章と第3章で“おいてけぼり”にされた要素であるV [be Ved] について注目します。実は述語も、かなり豊かなバリエーションをもつのです。動詞が現在形だったり過去形だったり、動詞の前に助動詞が加わったり、また動詞が他の品詞の語と結びついて1つの意味をなすなど、いろいろな姿を見せます。述語はまた、形のみならず、意味も多様であり、これを受けて、述語の後ろのバリエーションが豊かになります。

この章ではこのような述語の多様さ、豊かさを眺め、同時に読解の際に、その豊かさにどう対処していくかを学んでいくことにしましょう。

① 現在完了 (能動態)

ここではまず、多くの人が苦手としている現在完了を扱います。現在完了とは次のような形の文です。

S have / has V (過去分詞形) …

つまり、Vの前にhaveまたはhasが加わった形です。Vは過去分詞形に変化します。

では、現在完了になることにより、文の意味はどのように変わるのでしょうか。次の問題に挑戦してください。

問題 92 次の文はいずれも「トムはその時計を修理した」と訳せるが、意味が異なる。どのように異なるかを説明せよ。

- (1) Tom repaired the watch.
- (2) Tom has repaired the watch.

解答・解説

(1)、(2)

(1)は述語が単なる過去形の文です。一方、(2)は現在完了です。現在完了を理解する最大のポイントは、「用いられている動詞が状態動詞か、出来事動詞かを見極める」ということです。状態動詞についてはp.192で扱いました。動きのない動詞でした。know (知っている)、resemble (似ている)などが例として挙げられます。一方、出来事動詞は動きのある動詞です。たとえばwalk (歩く)、jump (跳ねる)などの動作を表すものや、melt (溶ける)、become (なる)など、状態の変化を表すものです。

それぞれの場合の意味について、次のことを知ってください。

[現在完了の意味]

動詞が状態動詞である場合は、「継続」の意味になる。
動詞が出来事動詞である場合は、「結果」の意味になる。

「継続」と「結果」のうち、「継続」はわかりやすいはずですが。「現時点までずっと〜だ」という意味です。先にこちらの具体例を見ましょう。

I have owned a ship for five years. (私は5年間、船を所有している)

We have been busy since last week. (私たちは先週からずっと忙しい)

own (所有している)も、be (〜である)も動きのない動詞です。このような意味の動詞が用いられた現在完了の文は、継続の意味になります。継続の場合は、for 〜またはsince 〜といった形で、期間や始点が表されることが多くあります。

次に「結果」について説明します。これは、具体的には次のような意味です。

出来事は過去の時点で終わった。しかし、その結果として生じる何らかの事態が、現時点で存在する。

ここで改めて、次の2文を見てください。

(1) Tom repaired the watch. (トムはその時計を修理した)

(2) Tom has repaired the watch. (トムはその時計を修理した)

(1)は述語が過去形なので、過去のことしか述べていません。よって現在、時計がどのような状態なのかはわかりません。再び壊れた可能性もあります。

一方、(2)は現在完了なので、現在は「修理の結果として生じる事態」が存在するということを示します。修理の結果、時計は直ります。よって(2)の文からは、現在時計は直っており、正常に動くということがわかります。

以上の5行が、設問に対する解答だということになります。

なお、出来事動詞が用いられている現在完了は、出来事の結果として生じている事態が「完了」「経験」と呼べるものである場合が頻繁に見られます。上の(2)も「現在は修理が完了している」というニュアンスがあります。「経験」が感じられる例も見ましょう。

I have visited London twice. (私は2回ロンドンに行ったことがある)

Have you ever drunk whiskey? (ウイスキーを飲んだことがありますか)

2- 現在完了 (受動態)

次に、同じ現在完了でも、文が受動態の場合は、次のような形になります。

S have / has been 過去分詞形の一般動詞 … .

受動態の場合は、「be (be 動詞) + Ved (過去分詞形の一般動詞)」の前に have または has が加わります。be 動詞は過去分詞形の been に変わります。この結果、上のような形となります。

さて、受動態の文もまた、「継続」か「結果」の意味をもちます。どのような場合にそれぞれの意味になるかを、問題を通じて考察していきましょう。

問題93 次の文は、「継続」または「結果」の意味をもつ。どちらかを答えよ。

- (1) The man has been arrested in Canada.
- (2) Mars has been known since ancient times.

解答・解説

(1)、(2)

受動態の文が現在完了になった文を理解する際にも、「状態か、出来事か」が基準になります。受動態にも状態を表す文と、出来事を表す文があるのです。

「状態の受動態」は、「～されている」「～されていた」という意味のものであり、動きがありません (例「信頼されている」「尊敬されていた」)。一方、「出来事の受動態」は、「～される」「～された」という意味のもので、動きがあります (例「崩される」「押された」)。

「状態の受動態」の完了形は「継続」の意味になり、「出来事の受動態」の完了形は「結果」の意味になります。

(1)の「be 動詞 + arrested」は「逮捕される」という意味であり、動きがありません。「出来事の受動態」です。よって、これは「結果」の意味です。「逮捕され、現在、その結果として生じる事態がある」ということです。具体的には「今は警察の管理のもとにある」という含みがある文なのです。和訳は「彼はカナダで逮捕された」となります。ちなみに He was arrested in Canada. も「彼はカナダで逮捕された」と訳せますが、この文からは、過去のことしかわかりません。今は逃走中なのかもしれません。

(2)の「be 動詞 + known」は「知られている」という意味であり、動きがありません。「状態の受動態」です。よって、この文は「継続」の意味になります。since があることから明白です。和訳は「火星は古代から知られている」となります。「火星は古代からずっと知られている」として、継続のニュアンスをはっきりと出してもいいでしょう。なお、この文の since は従位接続詞ではなく前置詞です。

3- 現在完了進行形

ここはすぐに問題に入ります。

問題94 次の文を訳せ。

- (1) Tom has been swimming in the river since this morning.
- (2) Global poverty issues have been becoming more serious over the last ten years.